

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年1月31日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4693900021
法人名	有限会社 あかつき居宅介護支援センター
事業所名	グループホーム あかつき
所在地	鹿児島県薩摩郡さつま町紫尾4374番地1 (電話) 0996-59-8805
自己評価作成日	平成30年12月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成31年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・さつま町紫尾の鶴宮中学校跡地に立地し、自然豊かな環境で近くには温泉施設や物産館もある。地域行事に参加したり会話を交わし、事業所の行事にも保育園児やボランティア団体等が参加するなど日常的に交流している。

・管理者は、常に話しやすい環境を整え、職員とのコミュニケーションを図り、職員の意見や気づきを積極的に取り入れ、就業環境の整備やサービスの資質向上に繋がっている。

・利用者様の習慣や趣味を個々に把握し、外出の支援にて馴染みの店や、知人友人等、交流の継続を大切に支援している。

・災害時の対応として、年2回の避難訓練を実施し、安心して生活できるように努め、AEDも設置して緊急時対策に備えております。また、施設運営について具体的な改善等は、推進会議での助言も活かしております。

・施設の廊下は奥行きがあり、入所様の歩行訓練が可能で自主訓練されている。施設理念に基づき、利用者様・ご家族とのコミュニケーションを大切に、安心、信頼できる生活支援、また、職員は家庭的な雰囲気や心を通わせ、スキンシップを図りながら笑顔で思いやりのある支援を心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は中学校跡地に立地している。自然豊かな空気のきれいな場所である。近くに温泉や物産館もあり、職員や利用者は地域行事に参加したり、保育園児との交流がある。

・『尊厳、継続性、残存能力の活用』を理念として住み慣れた場所で、入居者は家族とのつながりを大切にしながら、地域に根ざしたその人らしい暮らしを支援している。

・年間計画をたてて、彼岸花散策・花見・鬼火焚き見物等、地域の行事に参加している。自宅訪問や買い物・墓参りの外出支援等、地域の方や家族・職員とのふれ合いの機会をつくっている。

・個々の趣味や思いを把握して残存機能を高め保持している。ぬり絵や編み物・新聞購読・ラジオ体操・毎日の歩行・餅つき等、これまでの生活の継続がある。

・管理者は職員とのコミュニケーションに心がけ職員の意見や提案を反映させサービスの質の向上を図っている。

・管理者は地域からの認知症の相談にも対応している。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	その人らしさを原点に、個々に応じた今までの生活を継続していただけるように支援しています。	尊厳・継続性・残存能力を重視した理念があり、玄関や台所に掲示しパンフレットに掲載している。職員会議の時に理念を振り返り、職員間で共有してケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加したり地元住民との挨拶や、馴染みの店での買物等交流されている。	自治会に加入し、ボランティアの受け入れを行い保育園児の慰問も行われている。地域行事にも参加している。近所から野菜などの差し入れがある。認知症に関する事の相談があれば分かり易く説明して対応している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方の相談にはわかりやすく説明し納得いただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議での施設の現状報告で意見や感想・提案等活かしてサービスの向上を図っている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し入所者の状況や行事報告・外部評価結果・職員研修・避難訓練の指摘事項等を報告し意見交換している。ヒヤリハットや食事に関する事等、意見や感想が出され、ホーム入り口の道路の補修工事を役場に要請する等、出された意見はサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	定期的な会議に行政の担当者が出席していただき密な連携を取り助言等いただいている。	市の窓口に出向き、相談したり取り組みを伝えている。運営推進会議には、介護保険課や高齢者支援課の参加があり、助言を得たり、連携を密に取っている。行政主催の研修会には、参加して情報を得ながら取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は安全が確保困難時に家族の同意と期間を定め最小限で実施することとし、拘束ゼロを原則としている。3ヶ月に1回以上の施設内研修をおこなっている。	身体拘束廃止委員会がありマニュアルをもとに3ヶ月に1回以上、研修を行っている。言葉の拘束も含め、拘束しないケアを共有している。玄関の施錠はしていない。外出希望がある時は、一緒に散歩したり、見守りや職員の連携で対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待については、言葉使い等、日々の業務において、職員同士見逃すことのないようにお互いに意識するように指導を徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、対象利用者はいないが勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しては、十分に説明をおこない、完全にご理解・納得されるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入所者様のご意見、要望等は日常的に伺い、家族のご意見等は面会時やご意見箱を利用されるようにしている。相談窓口等掲示している。	利用者のゆっくりくつろいでいる時や入浴の時間に意見などを聞いている。家族には面会時に職員の方から声かけして生活歴などを聞いている。介護相談員からのアドバイスも受けたり、意見箱も設置し、要望等は運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	話し易い環境をつくり、職員からの意見は積極的に取り入れ、改善向上を目指している。	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションをとり、職員間も話しやすい環境にある。勤務の変更希望があっても職員間で話し合って調整している。職員会議の時や随時フロアで話し合い意見を聞いている。備品の要望があり、提案や意見は検討して運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	少人数での業務分担であり、楽しく、明るい雰囲気です。やりがいのある職場環境を常に意識している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政や包括支援センター等の研修情報にて積極的に参加を促し、施設内勉強会も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設職員との情報交換にて改善等、積極的に取り入れサービス向上をはかっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境変化からの不安定な精神状態を理解して、不安の除去を図り、従来の生活環境をしっかり把握して、本人の理想とする生活を探る。そして、信頼を抱いていただくように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始に関しての、不安要望を伺い、支援の方向性を一緒に話し合っ、納得される支援を提供することで信頼を築く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人の心身状態を把握して、重点支援を見極め、家族と話し合いをおこない、理解を得て納得されての支援をおこなう。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を常に意識して冗談を交えながら、笑顔で言いたいことが遠慮なく言える環境づくりをおこなっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員も家族の一員として、本人・家族の方と話し合いをおこない、温もりが感じられる支援に努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活の延長ができるように、行きつけの店等への外出支援、知人・友人の面会が気軽にできるように配慮している。	馴染みの関係が途切れないように生活歴を把握し、希望を聞きドライブしたり、家族と墓参りや美容院に行ったりしている。知人や友人の面会がありお茶を出してゆっくりしてもらっている。馴染みの人や場所との関係が、途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々人の趣味を把握して、余暇の過ごし方の提案をおこない、利用者間交流を促している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の近況がわかるように、御家族や近隣の方々との会話にて相談等に応じるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃より、その人の意向や要望を意識して接しており、不満に思われていることはないかの観察をおこない、適切な支援の提供に努めている。	日々のケアの中で利用者や家族の思いや意向を汲み取り、課題分析して適切なケアに努めている。モニタリングも定期的に行っている。入浴時や部屋でゆっくりしている時に思いを聞き、新聞購読やぬり絵・折り紙・編み物等、趣味の継続も支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人・友人等より、本人様の生活歴・生活リズム・趣味等を伺い、経過把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズム・生活パターンの変化にて心身状態を把握し、その人らしさを失うことのないように支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人の生活歴、趣味等を本人・家族、知人等と話合って介護計画を作成し、状態に応じて計画の見直しをおこなっている。	日常生活の中から本人・家族の希望や要望を聞いて担当者会議で主治医の意見を入れて、介護計画を作成している。モニタリングは毎月行い、見直しは、6ヶ月毎に実施している。変化があった時はその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状態を介護記録に記載し個別の情報・状態を職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設対応出来ていないことは、他の施設との情報交換、連携にて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児の定期的な慰問、ボランティア団体の受け入れ、地域の行事等に参加し、気分転換を図られるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人・ご家族の希望を伺い、定期受診の支援をおこなっており、心身の状態をこまめに報告して医師との連携を図っている。	かかりつけ医は、本人・家族の希望を大切にして受診を支援している。定期受診は職員が同行し眼科や歯科は家族に協力してもらっている。職員が関わった受診は家族に結果報告をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員がお互い情報を伝達し合い、少しの異常でも早めの受診をするように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者の日常の状態を伝え、適切な対応ができるよう早期退院の支援に心がけている。定期受診時にて、心身状態を医療機関とお互いに確認している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の重度化については、定期的にご家族・主治医と今後の予測を含めての話し合いをおこなひ、支援の方向性を決めている	重度化や終末期に向けた方針は契約時に本人・家族に説明して同意書をとっている。状況変化の時は主治医の意見を聴きながら対応している。食事が摂れなくなった時は、医療機関の転移や特別養護老人ホームの入所も案内している。家族の意向に沿ってホームでできる最大限の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	備え付けの緊急時マニュアルにて定期的に勉強会をおこなっており、知識を身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練と地震、風水害等の指定施設への避難訓練を年1回実施している。	火災避難訓練と地震・風水害の訓練を消防署立ち合いの下、年1回実施している。自主訓練を1回行っている。町内会長や消防団員の参加がある。消火器の点検や緊急通報装置があり、避難時は緊急連絡先など個人情報のファイルを持って避難している。職員のヘルメット等も用意して避難している。備蓄は缶詰・米・インスタント食品・羊かん等を用意している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護に努め、声かけの仕方、接し方等、注意を払っている。居室に入る時は、できるだけ本人の了解を得るようにして入室している。	職員会で内部研修を行い、誇りやプライバシーを損ねない支援をしている。自己決定できるような言葉かけをしている。マニュアルをもとにトイレ誘導やドアの開閉・入室の了解・入浴の羞恥心等に気配りして対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より要望等、思っていることを気兼ねなく言える雰囲気づくりをおこなっており、希望の実現に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを尊重して、できる限りその人の1日の流れに沿える過ごし方ができるように援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	今まで利用されていた馴染みの美容院や衣料品店等を継続利用されるように、本人の思いを尊重している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けの手伝い等できる範囲での参加を促して、食事に関する意識を持っていたくようにしている。	ホールから食事前の準備風景が見え、嗜好調査をして、好きな物を把握している。行事食にも対応して外食に同行したり、家族と楽しむ方もある。食事の形態にも配慮している。にらの選別やテーブル拭き・下膳等、職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝・昼・夕・10時・15時のお茶の摂取状態、食事摂取状態を把握し、食事形態もミキサー食や一口カット等の対応にて完食されるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声かけ、就寝前の入れ歯の洗浄管理の声かけ、介助等、口腔ケアをおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意がなく排泄の訴えがない方等、定時の声かけをおこない排泄を促している。介護記録や排泄チェック表を活用している。	一人ひとりの排泄を記録しパターンを確認し排泄支援を行っている。シャワーを活用する場合もある。尿意のない利用者もパターンを見計らってトイレに誘導している。言葉かけに配慮して、トイレで排泄できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬に頼らないように、水分摂取や歩行等、運動の声かけをおこない、お腹のマッサージを施したりして対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週2回の入浴を楽しまれており、要望など状況に応じて随時の入浴を提供するよう個々の対応に努めている。	入浴は週に2回午前中に行っている。体調や気分をみて柔軟に対応している。入浴剤を使用している。脱衣所の温度差に配慮して、入浴をゆっくり楽しむことができるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠に関して、日中の過ごし方の提案をおこない、夜間睡眠確保について、適正な生活習慣の理解をいただくように声かけ支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期受診時に同行し、服薬状態心身の状態を主治医に詳細に報告して、副作用の状況に対して服薬調整をお願いし状態改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が楽しみにされている趣味の継続を支援している。家事手伝い等、個々の能力を活かして役割分担にて生きがいをもたれている。外出等は、家族にお願いしたりしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的に、外に出られて散歩等されるように促し、気分転換を図られるよう声かけを行っている。自宅帰省や外食、季節により花見、彼岸花散策等、地域行事への参加を計画している。	その日の希望にそって、広い敷地内の散歩や外気浴をしている。年間計画があり、彼岸花散策や季節の花見・外食・自宅帰省・温泉祭り等に出かけている。馴染みの店に買い物に行ったり、家族と墓参りや外食に行く等、協力を得ながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は個々に対応し、少額の金銭管理は本人に任せて、買物同行時には、本人が支払いをされるように見守りをおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を所持されており、利用者から電話をされたり、家族等からかけられたりして自由に近況を話されている。希望により、はがきの代筆等もおこなっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるように、玄関や広間に花を飾ったり、空調の管理については、温度管理を徹底して、過ごし易い空間づくりに努めている。	共用空間は天井が高く排気穴があり広い。加湿器が置かれ、温度・湿度が適切で空気の流れが良く、空調管理が行き届いている。廊下が長く一角に畳の部屋があり、大きな窓から外の景色が見わたせる。日当たりもよく、ソファも置かれ、リラックスできるゆとりのある空間で、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広間のソファーにて編み物を楽しまれたり、広間の畳に座られてテレビを観られたり、ゆっくりと過ごされるように支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室空間は入所時、本人・家族の希望を伺い設定しているが、随時、ベッドの移動や家族の写真等を貼られたりされて、精神的に落ち着いた空間で生活されるように配慮している。	居室はベッド・エアコンが設置してある。家からテレビ・布団・時計・仏壇・写真などを持ち込み、安心して生活できるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立に向けて、安全に安心して移動ができるようにバリアフリーとなっており、できるだけ行動しやすい住環境となっており、自立を促している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない